

平成27年度「ふくしまの未来を担う高校生海外研修支援事業」実施報告書

福島県立あさか開成高等学校

実施期間・参加人数・滞在都市・現地交流校について

7月17日（金）～30日（木）まで1,2年生22名が、オーストラリアのゴールドコースト近郊のタンボリンにホームステイをしながら、Tamborine Mountain Collegeで研修を行いました。

実施概要について

出発前の事前研修で福島再生可能エネルギーについて学習し、福島県の未来の重要な鍵になりうる様々な再生可能エネルギーについて理解を深めました。現地校においては、オーストラリアのエネルギーの現状と様々な再生可能エネルギーについて、語学学習やソーラーキットでの実験を通じて学び、さらには福島県の気候や風土に合ったエネルギー源はどのようなものかを考える授業を行いました。また、アボリジニ文化学習やスポーツ交流などを通じて、語学学習を積極的に行いました。研修の最後には東日本大震災当時の状況、復興へ向けての県民の取り組み、また2040年までにエネルギーの100%の自給を目指す県の方針についてもホストファミリーや現地校の教員などを対象にプレゼンテーションを行い、福島の現在と未来についてしっかりと発信することができました。

福島の現状発信や現地におけるエネルギー学習について

別紙参照



実施後の成果について

現地校では、生徒が主体的に授業に取り組むことができるような工夫、さらにはホストファミリーとのスムーズなコミュニケーションが図れるような授業や宿題を計画してくださり、大変充実した研修を行うことができました。また、学校や各家庭を通してオーストラリアの社会・風土・習慣なども学び、文化の違いを体感することができました。またコミュニケーションツールとしての英語（共通語）の重要性や英語を使う楽しみも実感できたのではないかと感じています。今後、海外研修報告会や国際交流論文集など研修の成果を発表させ、研修に参加していない他の生徒にも異文化理解の重要性を伝えながら、本校の国際理解教育が更に向上するための一助となればと考えています。

1 「福島の現状発信について」

2015年7月23日、オーストラリア・ブリスベン校外にある Tamborine Mountain College にて、生徒200名の学校集会および Farewell Party の中で、福島県の現状を伝えるためのプレゼンテーションを2回ほど行いました。オペレーター1名と代表プレゼンター4名を中心に、それぞれの担当箇所をパワーポイントを用いて英語で発表しました。

発表内容は大きく3部構成で、1部は福島県の紹介として福島県の位置とその地名の由来から始まり、駅や市役所、中学校の先生や同級生に福島の魅力等をインタビューした様子を編集した動画を流しました。英語による解説や、ランキング形式で福島の紹介を行いました。

2部は、現在も避難生活を送っている生徒による震災直後の状況説明と、現在の復興の取り組みについて説明しました。彼女が実際経験した避難先の体育館での生活や、物資不足の厳しい生活、オーストラリアを始め海外から届いた救援物資について感謝の気持ちを込めながら発表していました。復興状況の説明では、除染作業の結果や食品の放射性物質検査の取り組みなども紹介してきました。

3部は日本と福島県のエネルギー事情について発表しました。震災前後での日本における電力依存の変化や、福島県の地域の特徴を生かした再生可能エネルギー導入への取り組みを紹介してきました。福島県の取り組みについては福島県のHPの資料を参考に、浜通り、中通り、会津の三地区に分けて利用されている再生可能エネルギーを紹介してきました。

現地の生徒（中学生・高校生）や教員及びホストファミリーは、福島の現状についてとても興味を持って最後まで熱心に耳を傾けていただきました。現地のニュースマガジンを発行している方からは、「とても聞き取りやすい英語でしっかり理解できた。今回の発表内容を次号で取り上げ、ぜひ多くの人々により知ってもらいたい」と言うお言葉をいただくなど、震災当時と現在の復興状況、さらには今を生き抜く力強い子供達の様子が来場者に伝わったものと思います。生徒にとっても、過去・現在・未来を考える貴重な時間を得ることができただけでなく、自分たちの思いを外国語で発信・伝達できた経験は自信につながったと確信しています。

2 「現地の再生エネルギー学習について」

7月23日（木）、ホストスクールである Tamborine Mountain College の地理教員による90分の再生可能エネルギーに関する授業を受けてきました。パワーポイントを用いてオーストラリアのエネルギー事情についての概要説明があり、その後 VTR などを用いてオーストラリア国内で利用されている再生可能エネルギーについての説明がありました。また、現地の政策により2020年までに太陽光発電等の設置が急速に進んでいるとのことです。

世界トップクラスのウラン埋蔵量を誇るオーストラリアから日本はかなりのウランを輸入して原子力発電に利用してきましたが、輸出国オーストラリアに原子力発電所が1基もないことに驚いたという生徒の感想が多くありました。また、再生可能エネルギーの開発・導入が進んでいるオーストラリアを日本も見習い、原子力に頼らず、再生可能エネルギーの開発・導入を推進してほしいという感想も多く挙がっていました。日本との電力事情の違いや、再生可能エネルギーにも関心を持っていたため、生徒の今後の取り組みにも期待しています。